

## ■ “WDCらしさ” が発揮された Women Dentists Club 会員発表会

もりやませい こ  
**森山聖子**

西川口歯科クリニック／森山歯科クリニック  
〒332-0021  
埼玉県川口市西川口1-6-1小野田ビル5F  
WDC 東日本支部 副支部長

2021年1月24日、WDC (Women Dentists Club, 天川由美子会長)の会員発表会が行われた。WDCは西日本・関西・東日本の3支部で構成され、通常は支部ごとに定例会を行っている。年に一度開催される総会には全国から会員が集い、各支部代表の会員発表、懇親会、著名講師による講演会を行っている。今年はコロナ禍の影響により、会員発表のみをZoomにて行うこととなった。当日は全国のWDC会員をはじめ、協賛企業や出版社からの参加者を加えて90名を超す盛会となった。

今回は4名の会員が発表を行った。

### ■咬合崩壊を起こした症例に苦慮した一例 (コロナ禍を通して)

**牛田環先生 (東京都, 東日本支部)**

前医からの引き継ぎやコロナ禍での治療中断という難しい状況の中、咬合の確立に苦慮しながらも咬合平面を整えたケースを報告された。マキシロ・フェイシャル・アナライシスに基づき、ラボサイドと綿密に情報共有しながら治療を進めていた。

### ■咬合平面と歯列弓の回復を求めて 前田千春先生 (東京都, 東日本支部)

さまざまな診査により、数歯の歯牙破折の原因を咬合平面の乱れによる早期接触やアンテリアガイダンスの不足と診断し、歯列弓と咬合平面を模索しながら全顎補綴治療を完成

今回は、Zoomを使用した会員によるケースプレゼンテーションのみの開催であったが、協賛企業なども含め90名を超える参加者が集った。



させたケースの発表であった。患者の要望を聞きながら、シングルリテンションブリッジや再殖を選択して最大限に歯の保存に留意していた。

### ■審美性・機能性・恒常性の高い補綴修復を目指して模索したプロビジュアルレストレーション 別府優子先生 (福岡県, 西日本支部)

咬合崩壊に対し、審美性と機能性を回復させた全顎的な補綴治療のケースであった。繰り返しプロビジュアルレストレーションを修正しながら試行錯誤された苦労が伝わる発表であった。

### ■I型糖尿病を有する広範型侵襲性歯周炎患者に対して包括的歯周治療を行った12年経過症例 松本ゆみ先生 (岡山県, 西日本支部)

歯周病のリスクが高い糖尿病の患者に対し、歯周基本治療で十分にコントロールをしながら、歯周外科、再生治療、インプラントを含む全顎補綴治療を行い、12年以上も経過良好なケースを報告された。

\*

今回の会員発表はすべて全顎治療のケースであった。それぞれ基礎疾患、歯周病、顎関節症やパラファンクションなどの難しい問題を抱えている中で、精密な診査・診断、さまざまな治療技術を用いて仕上げられており、先生方の取り組みと努力に大変感銘を受けた。また、4人の先生方に共通していたのは、患者の人

生に心から寄り添い向き合う姿勢であり、WDCらしさが存分に発揮されていると強く感じた。

### ■会全体を通して

日頃よりご協力いただいている協賛企業にもご参加いただき、各出版社の方より会員発表への講評もいただき、活発な意見交換、情報交換がある実りある会となった。

また、一昨年ご逝去された下川公一先生の思い出ムービーを西日本支部会員の吹譯景子先生が作成してくださり、これまで下川先生と共に歩んできたWDCの歴史を今一度振り返る機会となった。

そして、私たちWDCを牽引する林美穂名誉会長はじめ天川由美子会長、各支部長の先生方より、コロナ禍を女性歯科医師らしく逞しく生き抜き、さらに飛躍するための前向きなお言葉をいただき、大変勇気づけられた。

実際、Zoomでの開催にシフトしてからは、他支部の定例会にも気軽に参加できるようになり、勉強するチャンスが増えたと思う。また、会員同士の繋がりもより一層強くなるよい変化があった。こうしてコロナ禍においても学ぶ機会を得られる環境があること、目標とすべき尊敬できる先輩方がいること、そして共に轡を並べて高め合う仲間がいることに感謝し、これからもWDCの活動に励んでいきたい。